

小学2年2組 国語科学習指導案

指導者 恩 田 一 穂

1 単元名 図にあらわして話し合おう きつねのほんとうの気持ち ～『きつねのおきやくさま』～

2 単元のねらい

場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読んだり、読み取ったことを他者と交流する活動を通して、さらに作品に対する自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。

3 授業の構想

(1) 低学年での物語文の学習では、作品中の叙述から場面の様子や登場人物の心情を想像するよりも、挿絵に描かれている情景や登場人物の表情などを手がかりに読み進めることが多い。文章表現に限らず、あらゆる情報を駆使して読みを構成しているという点で、これまでの読書経験をいかした読みが行われているというよさが認められる一方で、説明的な文章の読みに比べ、感覚的な読みに頼る部分も少なくない。しかしながら、これまで取り扱った「たぬきの糸車」や「スイミー」などの学習を通して、登場人物の行動から心情が想像できることのおもしろさや、想像したことを表現活動に生かすことの楽しさを感じる経験を積み重ねてきていることも事実である。同時に、読み取ったことを交流する活動を通して、他者の考えに触れる楽しさや、作品に対する自分の考えが広がったり深まったりすることのよさを感じる経験も積み重ねてきている。

このような子どもたちの実態を踏まえ、一つ一つの表現を丁寧に吟味し（特に登場人物の行動や会話表現）、書かれている言葉からイメージを形作ったり、イメージを言葉にしたりの活動や、個で読み取ったことを交流する活動を意識的に単元に仕組む。そうすることで、作品中の叙述を根拠に、想像を広げながら読む姿や、作品に対する自分の考えを広げたり深めたりしようとする姿を目指す。

本単元で学習材として取り上げた『きつねのおきやくさま』は、最初はひよこたちを太らせてから食べようという魂胆をもっていたはらぺこきつねが（えさとして食べるために表面的な優しさを装っていたきつねが）、疑うことなくきつねのことを慕う純粋なひよこたちと関わっていく中で、次第に気持ちに変化し、最後にはその動物たちを守るためにおおかみと戦い命を落としてしまうお話である。この作品の特徴は、きつねの心情の二面性が描かれている点である。その二つの心情が、変化をともなった繰り返しの構造によって巧みに描かれているところに作品としてのおもしろさがあると同時に、繰り返されている表現に着目することは、本学習材を読み取る大きな手がかりとなる。子どもたちは、後半の命を懸けて戦う衝撃的な場面で、相反する二つの心情のうちいったいどちらの心情がきつねの本心だったのか迷いが生じると考える。もちろんここに子どもたちの思考のずれが生じることになる。こうした子どもたちに生まれた迷いや子ども同士の思考のずれ（問いへ

と発展するもの)を原動力として、考えの根拠を本文中に求めたり、個で読み取ったことを他者と交流する中で、作品に対する自分の考えをさらに深めたりしていきたいと考える。(2)本教材を通して、国語科で目指す資質・能力を身に付けるために、以下の点を大切にしながら授業を展開する。

○ねらいに即した思考ツールの活用と言語活動の設定(単元構成の工夫)

本単元では、場面の様子について、叙述(特に登場人物の行動や会話)を根拠とし、想像を広げながら読んだり、他者との読みの交流を通して、自分の考えを深めたりすることをねらいとしている。このねらいの達成のために、思考ツールの活用及び、より有効な言語活動を設定する必要があると考える。

【思考ツールの活用】きつねの心情を図で表す(全員が同じ土俵に立つ)

主人公であるきつねの相反する二つの心情を図で表し、それを共通のものさしとして理由を説明し、話し合う活動を設定する。そうすることで、きつねの心情をとらえる上で、全員が同じ土俵に立つことができる。また、図のみでは根拠が明確にならないので、理由を説明したり、他者に質問したり、自分のものと比較する姿が自然と生まれると考える。

【言語活動の設定】きつねになりきって日記を書く(思考したこと〈個・集団〉を形にする)

きつねの心情を図に表す活動を通して思考したことを、日記という形で表現する。図に表す活動での読みは、いわば、少し離れたところから物語を見る客観的な読みである。他者と読みを交流することで、自分の読みが深まったりより確かになったりすると考えられるが、それをもう一度、きつねの視点で言語化する。ここには、自分がこの時点できつねの心情をどのようにとらえているか、思考した結果が表現されるため、自分の読みの結果や変容をとらえることができると考える。

○子どもたちにとって切実な単元を貫く課題の設定(単元構成の工夫)

「読むこと」の学習では、子どもたちの中に作品を読みたいという必要感が高まってこそ、一つ一つの言葉を吟味したり、何度も読み直したりという姿が生まれるとともに力も付いていく。このような考え方を基に、本学習材との出会いの場では、子どもたちの作品に対する反応を大事にして単元を貫く課題を設定したい。そのために、出会いの場と初発の感想を大切にす。出会いの場では、題名読みをしたり、冒頭だけ読み聞かせて後に話の展開を予想したりする活動を行い、お話のイメージ膨らませたい。初発の感想を書く際には、作品の本質(以下の2点)に迫るために、視点を与えて書くようにする。

①主人公であるきつねの変容

②なぜ、きつねは、おおかみの前にとび出していったのか

○学習したことのよさを実感できる場の工夫(ふりかえりの工夫)

学習したことが、次時や他の単元、そして日常の読書に活用されるように、また、次にはこうしたいという追求の方向が定まるように、何を学んだのかを明確にするはたらきかけを行いたい。そのために、1時間のふりかえりを行う際には視点をもってふり返るようにすると共に、ふりかえりができるための目に見える学習の足跡も残していく。

4 展開計画（全9時間 本時5/9）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇願う子どもの姿
1	1・2	○学習材と出会い、学習の見通しをもつ（2時間）	◇学習材との出会いから、自分で追求したい課題を見つけようとする姿
2	3～⑤ 6 7	○主人公のきつねの心情の変化を読み取る。 ・1～3場面の様子をきつねの行動を中心に読み取る。 ・4場面のおおかみとたたかう場面のきつねの心情を読み取る。 ・きつねが、はずかしそうにわらって死んだ理由を考える。	◇作品中の叙述に着目して、場面の様子や登場人物の心情を豊かに想像して読む姿 ◇他者の考えを取り入れて自分の考えを広げたり深めたりする姿 ◇学習をふりかえり、学習を通して身に付けた力を確認したり、次への課題を見つけようとする姿
3	8・9	○これまでの学習をふりかえり、これまで書いてきた日記を他者と交流したり、作品に対する自分の考えを表現したりする。	◇他者の考えを取り入れながら自分の考えを広げたり深めたりした上で、自分の考えを表現する姿

5 本時の学習

(1) ねらい

きつねの心情を図に表し、きつねの行動や会話等を根拠に図に表した理由を説明したり他者の理由について考えたりするを通して、きつねの心情を想像することができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時までの学習内容と本時のめあてを確認する。 ・だんだん気持ちがかわってきているから、ここでも変わると思うな。 ・まだここでは変わらないよ。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">うさぎに出会ったばめんのきつねの気持ちをはっきりさせよう。</p> <p>2. 自分の考え（理由）をはっきりさせ、図に表す。 ・一はあん。にげる気かな。きつねは、そうっとついていった。 ・それをかげで聞いたきつねは、うっとりして、きぜつしそうになった。 ・そこできつねはひよことあひるとうさぎを、そうとも、かみさまみにそだてた。</p> <p>3. 図に表したことを全体で話し合う。 ・きつねはひよことあひるがにげるかもしれないし、うさぎもまるまるふとってきたぜと書いてあるからまだ食べたい気持ちが強いと思う。 ・これまでは、言ってもらってうれしい言葉を聞いたときには、「うっとりした」だけだったが、「きぜつしそうになった」という言葉が足されているから、うれしい気持ちが増えていると思う。</p> <p>4. 話し合ったことをもとに、きつねになりきってこの日の日記を書く。 ・あね、今日はやせたうさぎに出会ったよ。うさぎもはやくふとらせたいな。でも、みんながかみさまみになってくれたってうれしかったよ。もっとやさしくしてあげたいな。</p> <p>5. 本時を振り返る。 ・人の考えを聞いていると、初めは食べたい気持ちが多いと思っていたけれど、3びきを大切にしたい気持ちが多くなっていると思うようになったよ。</p>	<p>・前時に書いた日記やふりかえりを紹介し、本時に取り組みたいことを明確にし、全体で共有する。</p> <p>・図を作成する際に、本文中の根拠とした部分は、色分けをして線を引くようにし、この場面でのきつねの心情を視覚的にとらえられるようにする。 (食べたい気持ち：青、仲間意識：赤) ・迷った箇所はきつねの心情の二面性を感じている証拠なので、迷った理由を掘り下げはたらかかけや迷ったことを認めるはたらかかけをする。</p> <p>・きつねの心情の二面性が視覚的にとらえられるように、二つの心情を上下に分けて書くなど、板書を工夫する。 ・同じ表現に着目していても、心情のとらえ方が違う場合があるため、その考えを意図的に取り上げ、きつねの心情の二面性を意識できるようにする。 ・きつねの行動以外に着目した考え（時間の経過や挿絵など）も取り上げ、場面全体の様子をとらえられるようにする。 ・前の場面と異なっているところに着目している考えは意図的に取り上げ、前時までの掲示物を活用しながら比較して考えられるようにする。また、比較して考えることのよさを認めるはたらかかけをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（読むこと）</p> <p>根拠となる部分を本文から見つけてきつねの心情を図に表したり、読み取ったことを生かしてきつねになりきって日記に書いていたりしている。 【評価方法 発言、教科書の書き込み、ノート】</p> </div> <p>・ふりかえり際には、考えが変わった理由、考えが変わらない理由を視点として与える。</p>

